参考：消防機関が傷病者の状況を確認し伝達するための基準（東京都の事例）

外傷観察カード ＜東京消防庁＞

総合判断：A　B　C

外見	状態		歩行可能・不能（仰・側・腹・坐・その他）・虚脱			
	顔貌	顔色	正常	黄・紅潮	土気色・蒼白・チアノーゼ	
		表情	正常	興奮・不安・苦悶	無表情・うつろ	
	嘔吐・失禁		なし	嘔気・嘔吐・吐血・喀血	失禁（大・小）	
	皮膚体温等		正常	乾燥・発熱・湿潤・発汗・浮腫	冷汗・冷感	
	眼瞼結膜 爪床 四肢末梢		正常	蒼白・チアノーゼ		
バイタルサイン	意識		清明	1 2 3 10	20 30	100 200 300
			A自発性喪失・I便尿失禁・R不穏状態	意識障害進行		
	呼吸	性状	正常	浅・深・喘鳴・異常（　呼吸）		
				胸部挙上不十分	感ぜず	
		数（　）回／分	成人	16～19	20～29	10～15	10未満または30以上
			乳幼児	24～30	31～34	15～23	15未満または35以上
		呼吸音	正常	左右差（なし・あり）	乾性ラ音・湿性ラ音　狭窄音	
	脈拍	緊張度	正常	強・弱	左右差（なし・あり）	微弱
		リズム	整	不整（　）	総頸触れず	
		数（　）回／分	成人	50～100	101～119	50未満または120以上
			乳幼児	80～120	121～149	80未満または150以上
	血圧	測定値	／	／	左右差（なし・あり）	
		収縮期血圧	140～90 mmHg	141～199	90未満 200以上	測定不能
	SpO_2		93～97%	90～92%	90%未満（　%）	
	瞳孔	大きさ	正常	縮小（両側）・不同（左＞・右＞）	散大	
		反射	正常	にぶい	なし	
		偏視	なし	右・左・上・下・右斜め・左斜め・共同偏視		

左（　）
右（　）

1● 2● 3● 4● 5● 6● 7● 8●

※1 赤枠の項目が1つでもあれば、重症と判断する
※2 緑色の項目は総合的に重症度を判断する

主訴・局所状態

痙攣等	なし	ふるえ・弛緩・痙攣｛局所・全身／間代・強直｝
		しびれ・悪寒・めまい・耳鳴り・動悸・脱力感・胸内苦悶
麻痺	なし	言語・知覚・運動｛上肢・下肢・片（左・右）／上半身・下半身・全麻痺｝
		除脳硬直・除皮質硬直
部位	頭・顔・眼・鼻・口・耳・頸・肩・胸・腹・腰・背・殿・陰	
	前額 前頭 側頭 後頭	前胸部 側胸部 背部 頭頂
	上腹部 下腹部 側腹部	上肢左（肩・上腕・肘・前腕・手） 右（肩・上腕・肘・前腕・手） 下肢左（そ径・大腿・膝・下腿・足） 右（そ径・大腿・膝・下腿・足）
痛み	なし	純痛・激痛　限局・放散　間歇・持続
出血	なし	止血・持続　出血量　少・中・多　約（　ℓ）
		皮下血腫　毛細血管　耳・鼻出血　中枢（動脈・静脈）
		末梢（静脈・動脈）　髄液（耳・鼻）漏
創傷等	なし	擦過傷（創）・打撲・挫傷（創）　刺創・杙創
		咬創・切創・割創・挫滅創　切断・裂断
		頭・頸・胸・腹・最頸部への穿通性外傷、フレイルチェスト 多指切断、四肢の切断、腹壁緊張、腹膜刺激症状、腸管損傷 腹部膨隆、内臓露出、頸部又は胸部の皮下気腫、血気胸疑 外頸静脈の著しい怒張、デグロービング損傷 15%以上の熱傷を伴う外傷、顔面熱傷・気道熱傷
骨折	なし	陥没・腫脹・脱臼・変形・非開放　陥没・開放・動揺・裂音
		頸骨・肋骨　頸損・脊損（胸・腰）・胸壁運動の左右差 胸壁動揺・骨盤・両側大腿骨・顔面骨
既往症	なし	心疾・脳血・高血・消化・泌尿・その他

受傷機転（重症）	
頸部刺創	車の横転
胸腹部刺創・銃創	車が高度に損傷している
高所墜落（約5m以上の場合）	車にひかれた
機械器具に巻き込まれた	5m以上跳ね飛ばされた
頭、頸、体幹部が挟まれた	受傷機転（転倒したバイクと運転者の距離、大。自動車が歩行者、自転車に衝突等）から重症と疑える場合
車から放り出された。	
同乗者の死亡	
救出に、20分以上要した	

記事欄
薬剤使用歴：
最終飲食時刻：

2006

東京消防庁観察カード